

# 森 よ う ち え ん グ ル ー プ

## Lyngbakken 総合保育園

レポート：村 城 正

### 【総合保育園の概況と様子】

#### ★どのグループでも毎日必ず戸外に出て遊ぶ

ロスキレ市の郊外にある Lyngbakken 総合保育園では、乳児(0~3歳児)13人、幼児(3~6歳児)50人をあずかっており、年齢に応じていろんなグループ分けがなされています。例えば、「本を読むグループ」「お絵描きグループ」「クラフトグループ」などといった具合です。しかし、どのグループでも毎日必ず戸外に出て遊ぶというのは、全てに共通しています。

#### ★小さいときから自己決定する

保育園では、子どもたちの自主性を大切にしたい運営がされており、全て子どもたちがやりたいことを決め、それにそって先生を配置しているとのこと。「自分で決定する」ということを乳児保育の頃からしつけており、遊びについても「どこで遊ぶか」「何をするか」などは、全部子どもたち自身に決めさせているとのことです。(こうした、小さい頃からの育ち方が、高齢者の自立の文化にもなっているようです)したがって、大人(先生)は、子どもたちのアドバイザーであり、子どもたちが一生懸命やっているところを支援し、自ら達成感や喜びを感じるようにしていくのが役割となっています。

#### ★園の庭の広さと景観に驚かされる

私たちが保育園に到着すると、すでに子どもたちは庭(園庭)に出て思い思いに遊んでいました。バスから降りると、子ども

たちの元気な声が聞えてきました。保育園について先ず驚いたことは、園の庭の広さと景観です。園庭の広さは、1000坪くらいあって、かなり広い。しかも、日本と違うのは、庭には木がいっぱいあって、まるで森(林)のような庭だということです。

そして、ところどころに「砂場」や「隠れ家」、「ブランコ(鳥の巣)」、「ジャングルジム」「お山」などがいっぱいあり、子どもの遊びには事欠きません。

もし日本で、こんな見通しの悪い庭をつくらうものなら、たちまち「管理できない」「危ない」と言って猛反対されそうです。

自転車に乗っている子、砂場で遊んでいる子、一輪車に砂を積んで二人で押している子など・・・様々です。



<ペダルなし自転車でゴーゴー!!>

#### ★子どもは子どもらしく

子どもたちの遊んでいる様子を見ていて気が付いたことは、そばにいる先生の対応です。子どもたちに何かを教えるのでもなければ、一同に集めて何かをさせようという様子が全く見られません。それとなく

子どもたちを見守っているだけです。中には、子どもたちと一緒にブランコに乗って遊んでいる先生もいましたが、とても楽しそうです。デンマークでは、先生が子どもたちを“指導する”とか“教える”とかいう立場でなく、あくまでアドバイザー役であることです。

「子どもは子どもらしく」あることを尊重し、子どもたちに「大人の考えや意見を押し付けない」というのが、基本的な保育方針となっています。

（“しつけ”でなく、“おし付け”に、“見守り”でなく“管理”になっている日本の保育園との差を感じます）

### 【森へ行こうグループについて】

#### ★森へ出かける希望者が多く隔週で

この園には「森へ行こうグループ」というのがあり、一緒に参加させていただきました。森へ行くのは、年長組と真ん中の子どもたちが対象になっており、一番小さい子は含まれていません。また、希望者が多く、隔週ごとに（20名くらいずつ）交代で森に出かけているとのことでした。

通常は、9時頃に保育園を出発し、夕方15時に森を出発するので、保育園へは15:30分くらいに着くとのことでした。森へ出かけるのは、月曜日から木曜日までとなっており、金曜日はスタッフミーティングの日となっているため、全員が保育園で過ごします。

その日は、乳児を含めて、子どもたち全員60人くらいで、合同でやれる遊びを30分くらい行ってから食事のあとの時間をスタッフのミーティング等に活用しているとのことでした。

#### ★自然を楽しむ四季を感じる

森の保育園へ行く目的は、先ず、子どもたちが「自然に親しむこと」「四季を感じること」だそうです。

森には、午前には食べる間食とお昼の食事、午後のフルーツ等を家から持って行きます。しかし、それをいつ食べるかなどは自由であり、子どもたち自身が決めるようです。ただ、10時頃に全部食べてしまうとお昼になくなってしまうので「それは少し残しておいた方がいいわよ」とか、大人が適切にアドバイスをしますが、でも「いつ



何を食べるか」など、基本は全部子ども自身で決めます。

〈みんなで食べる食事はおいしいな… 〇〇 〇〉

### 【森のようちえんの様子】

#### ★森の中の拠点に到着

私たちは、子どもたちよりも少し早く森へ出発しました。バスが走り出すと、道路沿いに広い畑や牧草地が広がり、まるで北海道のような田園景色が続きます。ところどころに、風力発電の風車も見られ、環境に優しい国であることが感じられます。保育園を出発して20~30分くらいたつて、バスはブッシュ（森）の中へと入り、やがて田舎風の小さな一軒家の前で止まりました。ここが、森の保育園の拠点です。

この小さな一軒家は、子どもたちが荷物を置いたり、トイレなどを使用するための

ものだそうですが、中をのぞくと雨具等もあり、少々の雨の日でも自然に親しみ遊んでいることが伺われます。子どもたちは、この近くまでバスで来て、ここまではみんな歩いてやって来ます。

私たちが到着して、しばらくスタッフの方の話を聞いていると、子どもたちの元気な声が森の中に響き渡り、みんなで楽しそうに歩いて私たちのところへやってきました。

子どもたちは、到着するとすぐに自分たちの荷物（リュック）や水筒を、入り口に設けられたカゴやシートの上に置いて、すぐ思い思いに遊び始めました。

近くにある小さな小屋の屋根によじ登って得意そうに遊ぶ子ども、森（ブッシュ）の中を走り回る子ども、木登りを始める子、バイキング遊びをする子など様々ですが、先生はついていません。

子どもたちと一緒に森の奥の方へ行ってみると、敷地は奥の方でフェンスに囲まれており、どこまでもいけるわけではありません。しかし、ここの敷地も大変広く、逐一先生の目も届きません。でも、みんな自由に走り回って遊んでいました。ここで30分くらい遊んでから家の前にある広場にみんなが集まりました。（10時45分頃に集合。人数の確認をしているようです）

### ★さあ、いよいよ森へと出発です

この日の付き添いの先生（スタッフ）は、3人しかいません。最初は、みんなで固まって歩いていましたが、どんどん先に進んでいく子、ゆっくり歩いていく子などがあり、しばらくすると子どもたちの間隔がどんどん開いていきます。

歩き始めてから10分もしないうちに、先頭の子と一番後ろの子までの間隔は、もう100m以上も開いています。やがて、

上り坂に差しかかるとその間隔は益々開いていきます。でも、先生も子どもも、誰も何も言いません。

しばらくして丘の上にまで行くと、そこに大きな木が一つあり、その木の下には周りを取り囲むようにして作られた椅子があり、先に行った子どもたちはそこに座って後から来るみんなを待っています。どうやら、ここはみんなの待ち合わせ場所になっているようです。

### ★危険と判断すると

丘の上からの眺めは、遠くに海が見えて素晴らしい景色です。しばらくして、みんなが揃いだすと再び出発です。今度は、坂道を下っていきましたが、そこには放牧されている乳牛が草を食んでいる光景に出会いました。子どもたちは、その牛のところへと近づいて行きます。牛が、子どもたちに驚いて遠くへと移動し始めたので、子どもたちもその牛を追ってついていきません。

でも、あまり遠くの方に行き過ぎて、牛が沢山固まっている沼地の近くまで来たとき、後ろの方から先生の大きな声が聞え、子どもたちが戻ってきました。（あまりに牛が多すぎることや沼のようなどころなど危険なので、どうやら先生が呼び戻したようです）



〈おーい、まってー！〉

## ★森の中でも自由に遊ぶ

子ども達が坂を上って戻ってきましたが、今度は大きな倒れた木や切り株のあるところに出ました。周辺には、イバラや草が生えており、野いちごもあります。子ども達はその周辺で遊び始めました。倒れた大きな木の上に10人以上が鈴なりになって登っています。近くで、野イチゴをつんでいた女の子が、私たちに食べごろのイチゴのあるところを教えてくださいました。

先生は、切り株のあるところで、子どもたちの様子を見ながら談笑しています。でも、ここでも最後まで、子どもたちに注意らしき言葉をかける様子は、一度も見られませんでした。

そして、また移動していくと、今度は大木のあるところに出ました。大きな木は、根元付近から枝が分かれているため、小さな子どもでも登ることが可能です。そこで、子ども達は早速、木登りを始めました。枝を伝ってどんどん高いところに登っていく子どももいます。おそらく、日本でなら保育士さんが仰天して、即刻降ろしてしまいそうです。



<びっくり仰天、大きな木登り °o°>

## ★弁当の中身は大変簡単なもの

それからしばらくして、またもとの小さな一軒家のあるところに戻ってきました。(11時40分過ぎでしたので、1時間ほど

森にいたことになりましたが意外と短かったです)

小屋について、みんなでテーブルに座っておもむろに食事が始まりました。食事で驚いたことは(他の保育園での食事もそうでしたが)弁当の中身が、大変簡単なものであったことです。弁当箱には、きゅうり、パン、サンド、ゆで卵、にんじんなどが入っているが、少し手が入っているのはサンドとゆで卵くらいであり、きゅうりやにんじんなどはそのまま丸かじりして食べるという具合です。

しばらくした後、私たちは子ども達よりも先に出発することになり、ここで別れて次の行き先(補助器具センター)へと向いました。(12:05分)

### <コラム>

#### ～森の幼稚園のはじまり・子どもの力～

1950年、デンマークのあるお母さんが、「自分の子どもは自然の中で育てたい」という思いから、有志を募って出かけたことが始まりといわれています。ひとりの思いがみんなの思いになり、社会的に認められる取り組みとなりました。さらに北欧4カ国に広がり、いまではヨーロッパ、とくにドイツの取り組みが盛んだそうです。

秋の新学期には新入園児が加わります。それぞれのコースの待ち合わせ場所や危ない場所、そして森のルールをゆっくり丁寧に伝えられます。子ども達が落ち着きはじめると、先生たちは「教える」という時間から子どもに「任せる」時間へと戻していきます。

今度は毎日森を歩いてきた年長児の力が引き出されます。危ないこと、楽しいことなど子ども同士が教え合い、自分で判断できるのです。危ないことは手を差しのべ合って、自分達で安全を守ります。